



東京女子医科大学雑誌

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

■総説

感染症

(1) 新しい輸入感染症……………早野真史・遠藤弘良… 1- 8

■報告

全身性エリテマトーデスとシェーグレン症候群に合併した

巣状分節性糸球体硬化症の1例……………佐藤由利子・

岩渕裕子・井上 暖・西田美貴・杉浦秀和・

板橋美津世・中島亜矢子・内田啓子・新田孝作… 9- 14

■学会・研究会抄録

第353回東京女子医科大学学会例会 (平成28年2月27日)…………… 15- 25

平成27年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会

(平成27年12月17日)…………… 26- 29

2016

Vol.86 No.1

ISSN 0040-9022

東女医大誌

J Tokyo Wom Med Univ

86巻 1号 平成28年2月

東京女子医科大学学会

SOCIETY OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

JOURNAL OF TOKYO WOMEN'S MEDICAL UNIVERSITY

(TOKYO JOSHI IKADAIGAKU ZASSHI)

Volume 86 Number 1
February 25, 2016
ISSN 0040-9022

Society of Tokyo Women's Medical University
8-1, Kawada-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-8666 Japan
Tel: 81-3-3353-8111 (ext. 22314) E-mail: gakkai.bi@twmu.ac.jp

Review

Infectious Diseases

(1) Emerging Travel-related Infections

Masashi HAYANO, Hiroyoshi ENDO 1-8

Report

A Case of Focal Segmental Glomerulosclerosis with Systemic Lupus Erythematosus and Sjögren's Syndrome

Yuriko SATO, Yuko IWABUCHI, Dan INOUE, Miki NISHIDA,
Hidekazu SUGIURA, Mitsuyo ITABASHI, Ayako NAKAJIMA,
Keiko UCHIDA, Kosaku NITTA 9-14

Proceeding

The 353rd Regular Meeting of the Society of Tokyo Women's Medical University

(February 27, 2016) 15-25

東京女子医科大学学会

会 長 吉岡 俊正 学長
副会長 橋本 悦子 教授 (医学部消化器内科学)

編集担当幹事

阿部光一郎 教授 (医学部画像診断学・核医学科)
青見 茂之 准教授 (医学部心臓血管外科学)
○江川 裕人 教授 (医学部消化器外科学)
▲遠藤 弘良 教授・講座主任 (医学部国際環境・熱帯医学)
 淵之上昌平 准教授 (腎臓外科)
萩原 誠久 教授・講座主任 (医学部循環器内科学)
林 和彦 教授 (化学療法・緩和ケア科)
檜垣 祐子 教授 (女性生涯健康センター)
平澤 恭子 准教授 (医学部小児科学)
石田 英樹 臨床教授 (医学部泌尿器科学)
神尾 孝子 臨床教授 (医学部外科学第二)
糟谷 英俊 教授 (東医療センター脳神経外科)
木林 和彦 教授・講座主任 (医学部法医学)
小谷 透 准教授 (医学部麻酔科学)
松井 英雄 教授・講座主任 (医学部産婦人科学)
野中 学 臨床教授 (医学部耳鼻咽喉科学)
大貫 恭正 教授・講座主任 (医学部外科学第一)
斎藤加代子 教授 (遺伝子医療センター)
○坂元 薫 教授 (医学部精神医学)
 櫻井 裕之 教授・講座主任 (医学部形成外科学)
◎澤田 達男 教授 (医学部病理学第一)
清水 洋子 教授 (看護学部地域看護学)
篠崎 和美 講師 (医学部眼科学)
杉原 茂孝 教授 (東医療センター小児科)
玉置 淳 教授・講座主任 (医学部内科学第一)
田中 淳司 教授・講座主任 (医学部血液内科学)

谷口 敦夫 教授 (膠原病リウマチ内科)
徳重 克年 教授・講座主任 (医学部消化器内科学)
△内田 啓子 教授 (学生健康管理センター)
 内潟 安子 教授・講座主任 (医学部内科学第三)
山口 直人 教授・講座主任 (医学部衛生学公衆衛生学二)

集会担当幹事

▲遠藤 弘良 教授・講座主任 (医学部国際環境・熱帯医学)
◎橋本 悦子 教授 (医学部消化器内科学)
 加茂登志子 教授 (女性生涯健康センター)
 唐澤久美子 教授・講座主任 (医学部放射線腫瘍学)
 小森万希子 教授 (東医療センター麻酔科)
 小國 弘量 教授 (医学部小児科学)
 岡本 高宏 教授・講座主任 (医学部外科学第二)
 尾崎 恭子 教授 (看護学部臨床系)
○尾崎 眞 教授・講座主任 (医学部麻酔科学)
 三谷 昌平 教授・講座主任 (医学部生理学第二)
 佐藤 麻子 教授 (中央検査部臨床検査科)
 澤田 達男 教授 (医学部病理学第一)
 高村 悦子 臨床教授 (医学部眼科学)
△内田 啓子 教授 (学生健康管理センター)

監事

石黒 直子 准教授 (医学部皮膚科学)
八木 淳二 教授・講座主任 (医学部微生物学免疫学)

◎幹事長 ○副幹事長 ▲会計 △庶務 ABC 順

おわりに

航空機による旅行が一般的な今、世界のどこで発生しても感染症は、他の国に移動する。日本国内でもめずらしい輸入感染症に出会う機会がないとはいえない。特に高熱や重症肺炎の患者さんを診察するときは、欠かさず渡航歴を聞くことが重要である。

開示すべき利益相反状態はない。

文 献

- 1) **Baize S, Pannetier D, Oestereich L et al:** Emergence of Zaire Ebola virus disease in Guinea. *N Engl J Med* **371**: 1418–1425, 2014
- 2) **WHO:** Ebola Situation Report -22 July 2015. <http://apps.who.int/ebola/current-situation/ebola-situation-report-22-july-2015> (accessed on July 26, 2015)
- 3) **WHO:** Fact sheet No103 Ebola virus disease, 2015. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs103/en/> (accessed on July 26, 2015)
- 4) **Chertow DS, Kleine C, Edwards JK et al:** Ebola virus disease in West Africa — Clinical manifestations and management. *N Engl J Med* **371**: 2054–2057, 2014
- 5) **国立感染症研究所:** <特集>西アフリカにおけるエボラ出血熱, 2015年5月現在. 病原微生物検出情報 **36**: 93–112, 2015. <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-sp/2321-iasr-archiv/iasr-vol36/5718-iasr-424.html> (accessed on July 26, 2015)
- 6) **国立感染症研究所:** <特集>デング熱・デング出血熱 2011-2014年. 病原微生物検出情報 **36**: 33–47, 2015. <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-vol36/5467-iasr-421.html> (accessed on July 26, 2015)
- 7) **CDC:** Health information for international travel 2014. <http://wwwnc.cdc.gov/travel/yellowbook/2014/chapter-3-infectious-diseases-related-to-travel/dengue> (accessed on July 26, 2015)
- 8) **WHO:** Fact sheet No117 Dengue and severe dengue, 2015. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs117/en/> (accessed on July 26, 2015)
- 9) **WHO:** Dengue: guidelines for diagnosis, treatment, prevention and control—New ed. Geneva; World Health Organization, 2009. http://whqlibdoc.who.int/publications/2009/9789241547871_eng.pdf?ua=1 (accessed on July 26, 2015)
- 10) **WHO:** Handbook for clinical management of dengue. WHO and special programme for research and training in tropical diseases. Geneva; World Health Organization, 2012. <http://www.who.int/denguecontrol/9789241504713/en/> (accessed on July 26, 2015)
- 11) **国立感染症研究所:** デング熱・チクングニア熱の診療ガイドライン, 2015. http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dl/dengue_fever_jichitai_20150421-02.pdf (accessed on July 26, 2015)
- 12) **Simmons CP, Farrar JJ, Vinh Chau NV et al:** Current concepts Dengue. *N Engl J Med* **366**: 1423–1432, 2012
- 13) **CDC:** Dengue clinical case management course, 2014. <http://www.cdc.gov/dengue/training/cme/cm/index.html> (accessed on July 26, 2015)
- 14) **Burt FJ, Rolph MS, Rulli NE et al:** Chikungunya: a re-emerging virus. *Lancet* **379**: 662–671, 2012
- 15) **WHO:** Fact sheet No327 Chikungunya, 2015. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/fs327/en/> (accessed on July 26, 2015)
- 16) **ECDC:** Epidemiological update: Middle East respiratory syndrome coronavirus (MERS-CoV) 22 Jul 2015. http://ecdc.europa.eu/en/healthtopics/coronavirus-infections/Pages/news_and_epidemiological_updates.aspx (accessed on July 26, 2015)
- 17) **WHO:** Fact sheet No401 Middle East respiratory syndrome coronavirus (MERS-CoV), 2015. <http://www.who.int/mediacentre/factsheets/mers-cov/en/> (accessed on July 26, 2015)
- 18) **国立感染症研究所:** 中東呼吸器症候群 (MERS) のリスクアセスメント (2015年6月4日現在), 2015. <http://www.nih.go.jp/niid/ja/id/2186-disease-base/d/alphabet/hcov-emc/idsc/5703-mers-riskassessment-20150604.html> (accessed on July 26, 2015)
- 19) **WHO:** Fact sheet Avian influenza, 2014. http://www.who.int/mediacentre/factsheets/avian_influenza/en/ (accessed on July 26, 2015)
- 20) **WHO:** Cumulative number of confirmed human cases for avian influenza A (H5N1) reported to WHO, 2015. http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/H5N1_cumulative_table_archives/en/ (accessed on July 26, 2015)
- 21) **WHO:** Influenza at the human-animal interface, Summary and assessment as of 23 June 2015. http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/HAI_Risk_Assessment/en/ (accessed on July 26, 2015)

感染症—掲載予定—

執筆者	所属	テーマ	掲載号
早野真史	国際環境・熱帯医学	1. 新しい輸入感染症 (エボラ, デング熱など)	86 (1)
平井由児	順天堂大学医学部総合診療科	2. 日和見感染 (免疫抑制剤など)・院内感染	86 (2)
江川裕人	消化器外科学	3. 移植に対する感染症	86 (3)
橋本和法	産婦人科学	4. 性感染症 (HIV, HPV など)	86 (4)
岡部信彦	川崎市健康安全研究所	5. 国・自治体の感染対策	86 (5)
菊池 賢	感染症科	6. まとめ	86 (6)

第353回東京女子医科大学学会例会

日 時：平成28年2月27日（土）13：00～18：30

会 場：総合外来センター5階 大会議室

開会の辞
挨拶司会（幹事）橋本悦子
（会長）吉岡俊正

平成27年度研究奨励賞授与式 13：03～13：15

選考経過報告

（学長）吉岡俊正

山川寿子研究奨励賞（第28回）

1. ヒト iPS 細胞由来甲状腺細胞による再生医療を目指して

（先端生命医科学研究所特任助教）荒内 歩

2. カドミウムによる肺癌の悪性転化機構の解明

（衛生学公衆衛生学（第一）助教）藤木恒太

佐竹高子研究奨励賞（第24回）

1. 肥満合併2型糖尿病に関する研究

（糖尿病代謝内科講師）中神朋子

中山恒明研究奨励賞（第2回）

1. 安全な高難度肝臓手術の確立

（消化器外科学講師）有泉俊一

2. 糸球体内皮・上皮細胞のカベオラ阻害によるアルブミン尿減少効果の研究

（内科学（第四）准講師）森山能仁

平成26年度研究奨励賞受賞者研究発表 13：15～14：30

山川寿子研究奨励賞（第27回）

座長（幹事）尾崎 眞

1. DAMTS9によるインスリンの分泌と末梢組織での作用制御

（生理学（第二）助教）茂泉佐和子・（生理学（第二）教授・講座主任）三谷昌平

2. 菌周病がNAFLD病態形成に与える影響

（微生物学免疫学助教）大坂利文

佐竹高子研究奨励賞（第23回）

座長（幹事）尾崎 眞

1. ヘルパー T 細胞由来 Bach2 が気管支喘息に及ぼす影響について

（微生物学免疫学助教）芦野 滋

中山恒明研究奨励賞（第1回）

座長（幹事）尾崎 眞

1. NMD-小胞体品質管理クロストーク機構の分子機構と生理的役割の解析

（生理学（第二）講師）榊建二郎

2. 食道ESDに対する食道再生細胞シート治療の確立

（消化器外科学講師）大木岳志

<休 憩>

第10回研修医症例報告会 14：40～18：25

〔○発表者、◎指導医〕

開始の挨拶

（卒後臨床研修センター長）川名正敏

Block 1 14:45~15:35

座長（血液内科学）吉永健太郎

1. 救急医療部と連携して切除術を施行した多発性硬化症患者に生じた基底細胞癌の1例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²皮膚科，³病理診断科，⁴救急医療科，⁵吉住皮膚科）
○國上千紘¹・星野雄一郎²・貞安杏奈³・◎石崎純子²・
田中 勝²・藤林真理子³・磯谷栄二⁴・吉住順子⁵
2. 神経症状の改善に苦慮した好酸球性多発血管炎性肉芽腫症
（eosinophilic granulomatosis with polyangiitis, EGPA）の1例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²内科）○村上亜紀¹・◎高木香恵²・
興野 藍²・市村裕輝²・村上智佳子²・西沢蓉子²・小川哲也²・柴田興一²・佐倉 宏²
3. 重症化したアセチルサリチル酸中毒2症例の検討
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²救急医療科）○笹尾怜子¹・◎高橋宏之²
4. 予定手術の術前検査で incidental に発見された脳梗塞の1例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²脳神経外科，³心臓血管外科）○今里大介¹・
高橋祐一²・前 昌宏³・◎糟谷英俊²
5. 特発性膜性腎症（iMN）の診断17年後にびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫
（DLBCL）を発症した1例
（¹卒後臨床研修センター，²腎臓内科，³血液内科）
○内池広菜¹・◎佐藤尚代²・森山能仁²・板橋美津世²・内田啓子²・
土谷 健²・志関雅幸³・田中淳司³・新田孝作²

Block 2 15:35~16:25

座長（小児科学）平澤恭子

6. Down 症患者に発症した進行胃癌の1例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²内科）○梅田美妃¹・岡部ゆう子²・
細田麻奈²・入村峰世²・木村綾子²・◎大野秀樹²・齋藤壽仁²・佐倉 宏²
7. 腸管感染症罹患後に Fusobacterium necrophorum による肝膿瘍および肺膿瘍を
併発した若年男性の1例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²内科）○細田祐未¹・島田美希²・清水比美子²・
村上智佳子²・西沢蓉子²・興野 藍²・樋口千恵子²・◎小川哲也²・佐倉 宏²
8. 救急外来で発見された網膜芽細胞腫の1例
（¹卒後臨床研修センター，²小児科）○下村里奈¹・◎平澤恭子²
9. 二回連続の自家 PBSCT 併用大量化学療法を行った脊髄再発小児脳腫瘍の2例
（¹卒後臨床研修センター，²小児科）○三上陽子¹・◎鶴田敏久²
10. 母親の育児過誤が重症化に関与したと考えた小児アトピー性皮膚炎の1例
（¹卒後臨床研修センター，²小児科）○木原祐希¹・◎千葉幸英²

< 休憩 >

Block 3 16:35~17:25

座長（消化器外科学）小寺由人

11. 経尿道的膀胱腫瘍摘出術中に早期に膀胱穿孔を診断し得た1例
（東医療センター¹卒後臨床研修センター，²麻酔科，³泌尿器科）○二瓶春菜¹・
◎安藤一義²・市川順子²・西山圭子²・小高光晴²・伊藤文夫³・小森万希子²
12. Renal cell carcinoma associated with Xp11.2 translocations/TFE3 gene fusions (Xp11.2 RCC)
（¹卒後臨床研修センター，²病理診断科，³泌尿器科，⁴画像診断・核医学科）
○小川杏平¹・山本智子²・高木敏男³・近藤恒徳³・森田 賢⁴・◎長嶋洋治²
13. Porcelain Aorta を伴う透析患者の大動脈弁置換術時の工夫
（¹卒後臨床研修センター，²心臓血管外科）○村上弘典¹・瀧口洋司²・

原田崇史²・宮本卓馬²・岩朝静子²・◎津久井宏行²・山崎健二²

14. 感染を繰り返した多発肝嚢胞に対して生体部分肝移植術を施行した1例
(¹卒後臨床研修センター, ²消化器外科) ○相原永子¹・◎米田五大²
15. 門脈ガス血症をきたした穿孔性虫垂炎の1例
(¹卒後臨床研修センター, ²外科, ³青山病院消化器病内科) ○尾崎敦子¹・
◎廣澤知一郎²・高部裕也²・片岡温子²・谷 公考²・産形麻美子²・
番場嘉子²・小川真平²・板橋道明²・岡本高宏²・長原 光³

Block 4 17:25~18:15

座長 (医学教育学) 大久保由美子

16. 心尖部肥大型心筋症として長年加療されていたが、心筋生検で
心アミロイドーシスと診断された62歳男性の1例
(¹卒後臨床研修センター, ²循環器内科, ³病理学(第二), ⁴血液内科) ○森 友実¹・
◎鈴木 敦²・芹澤直紀²・志賀 剛²・宇都健太^{2,3}・田中淳司⁴・萩原誠久²
17. 低Na血症の原因究明に苦慮後、鉍質コルチコイド反応性低ナトリウム血症が疑われた1例
(¹卒後臨床研修センター, ²糖尿病センター内科) ○土屋海士郎¹・
◎花井 豪²・大屋純子²・内潟安子²
18. 多発性筋炎と重症筋無力症を併発している患者に高度房室ブロックを合併した1例
(¹卒後臨床研修センター, ²循環器内科, ³神経内科, ⁴膠原病リウマチ痛風センター)
○猪口祥子¹・◎野村 新²・鈴木 敦²・芹澤直紀²・
庄田守男²・萩原誠久²・清水優子³・北川一夫³・勝又康弘⁴・山中 寿⁴
19. セツキシマブによる低Mg血症と皮膚障害への対応に苦慮した1例
(¹卒後臨床研修センター, ²化学療法・緩和ケア科) ○斎藤史子¹・◎川上和之²・
井原世尊²・近藤侑鈴²・中島 豪²・竹下信啓²・林 和彦²
20. 呼吸困難を主訴に来院し心タンポナーデと診断された1例
(¹卒後臨床研修センター, ²循環器内科, ³総合診療科) ○中野辰憲¹・
萩原誠久²・齋藤 登³・◎川名正敏³

初期臨床研修現況報告

(循環器内科学) 志賀 剛

ベストプレゼンテーション賞表彰式

閉会の辞

司会 (幹事) 橋本悦子

〔平成26年度山川寿子研究奨励賞受賞者研究発表〕

1. ADAMTS9によるインスリンの分泌と末梢組織での作用制御

(生理学(第二)) 茂泉佐和子・三谷昌平

ADAMTS9は細胞外に分泌され、細胞外マトリックスを分解する酵素として知られていたが、我々はADAMTS9がER内でも機能し、ADAMTS9の発現抑制により、ER-Golgi間の蛋白質輸送が阻害されること、この機能はヒトと線虫*C.elegans*で共通していることを見いだした。

ヒトにおいて、ADAMTS9の一塩基多型(SNP)は2型糖尿病のリスク遺伝子の1つであることが報告されて

いる。そこでADAMTS9の機能を抑制することにより、β細胞におけるインスリン分泌と末梢組織におけるインスリン感受性のどちらに影響を及ぼすかを検討した。まず、線虫*C.elegans*におけるADAMTS9のホモログであるGON-1の機能を抑制することにより、インスリン分泌細胞におけるインスリン分泌と、末梢組織におけるインスリンシグナル伝達経路のどちらが阻害されるかを検討した。その結果、GON-1の機能抑制により、インスリン分泌とインスリンシグナル伝達経路の両方が阻害されていた。次に、哺乳類におけるADAMTS9の機能と糖尿病発症メカニズムとの関係を検討した。ラットβ細胞由来の培養細胞(INS-1)を用い、ADAMTS9の機能を抑制した結果、インスリンの分泌が抑制されていることを

平成27年度東京女子医科大学医学部・基礎系教室研究発表会

日 時：平成27年12月17日（木）13：00～17：00

場 所：東京女子医科大学 臨床講堂 I

主 催：基礎医学系教授会

1. ヒト赤血球膜におけるフリッパーゼ分子の同定とその異常による溶血性貧血の解析 (生化学) 新敷信人
2. CXCL17 発現腫瘍における血管形態の変化 (解剖学・発生生物学) 松居 彩
3. 悪性脳腫瘍における代謝活性化の意義 (病理学 (第一)) 増井憲太, 柴田亮行
4. PQA (Personal Qualities Assessment) の有用性の検討 -- 測れる? 測れない?
(¹生物学, ²化学, ³元英語, ⁴元日本語学) 福井由理子¹, 岡田みどり², 野田小枝子³, 三原祥子⁴
5. パプアニューギニア村落部における住民の保健医療サービス利用 (国際環境・熱帯医学) 塚原高広
6. 銀ナノ粒子のリソソーム分布と毒性 (衛生学公衆衛生学 (一)) 宮山貴光, 松岡雅人
7. Th17 細胞の質的变化によって誘導される気道過敏性および気道炎症について (微生物学免疫学) 芦野 滋
8. 神経損傷による脳内身体表現の変容と機構 (生理学 (第一)) 宮田麻理子

1. ヒト赤血球膜におけるフリッパーゼ分子の同定とその異常による溶血性貧血の解析

(生化学)

新敷信人

ヒト赤血球膜脂質二重層において、フリッパーゼによって内層のみ（非対称性）に維持されるフォスファチジルセリン（PS）は赤血球の機能に必須である。一方、寿命を迎えるとPSが外層に露出し、脾臓マクロファージによって除去される。その際、上昇したCa²⁺により、フリッパーゼの活性抑制およびスクランブラーゼの活性化が起こるとされているが、両者の分子自体は未同定である。本研究は、早期のPS露出は溶血性貧血の原因となりうることを念頭に、フリッパーゼ分子の異常患者の解析から、ヒト赤血球膜におけるPSの非対称性分布を規定するメカニズムに迫るものである。

本院輸血細胞プロセッシング科（菅野教授）に来院した、原因不明の先天性“軽度”溶血性貧血を示す男性患者に対しExome解析を行ったところ（倫理委員会承認#223D）、14のフリッパーゼ分子が属するP-IV ATPaseファミリーのATP11C（X染色体）に点突然変異を見出した。本患者赤血球のフリッパーゼ活性は正常に比べて約90%低下しており、ATP11Cが主要なフリッパーゼであることが明らかとなった。しかし、驚いたことに患者血液中の全赤血球のPS露出は正常と同程度しか検出されず、多くの赤血球ではスクランブラーゼが抑制され、PSが露出しにくいことが示された。一方、スクランブラーゼが活性化している老化赤血球では両者でPS露出は増加し、患者赤血球でより顕著だったがその程度は軽度であり、溶血が“軽度”であることと合致した。

ヒト赤血球膜の主要フリッパーゼとしてATP11Cを同定し、その異常が軽度の溶血性貧血の原因となることを新たに見出した。ヒト赤血球膜のPSの非対称性分布はフリッパーゼにより形成されるが、その維持にはスクランブラーゼの抑制が重要であることを明らかにした。従って、従来説とは異なり、ヒト赤血球の生死は主にスクランブラーゼの抑制・活性化により規定されていると考えられた。

2. CXCL17 発現腫瘍における血管形態の変化

(解剖学・発生生物学)

松居 彩

腫瘍が生体で増殖するには、酸素や栄養を供給する血管が不可欠である。そのため、従来から腫瘍血管を絶やすことが癌治療において有用だとされていたが、一方で血管新生の速度を調整して腫瘍内の血液循環を維持させる方が抗癌剤や放射線による治療効果を高めるとも言われている。血流の維持においては、血管新生因子による血管新生促進と抑制の均衡を保つだけでなく、血管の構造自体も重要な要素となる。しかし、これまでは直接的に血管増加を促す因子が標的の要とされており、形成された血管の機能を維持する因子についてはあまり注目されてこなかった。そこで本研究では、その様な因子の1つとして、腫瘍増殖を促進するケモカインCXCL17に着目し、腫瘍血管の形態と機能に与える影響を形態学的に検討した。

CXCL17は乳癌細胞と大腸癌細胞に比較的多く発現している。そこで、本来CXCL17を発現していないマウス大腸癌細胞株 colon26 を用い、CXCL17を強制発現させ

雑 報

○編集担当幹事会

日時 平成 27 年 11 月 9 日 (月) 17:30~
場所 総合外来センター 5 階 小会議室
議題 Secondary publication (報告), 電子図書館事業 NII-ELS 終了と J-STAGE, 都内 3 大学医学
学会雑誌情報交換会 (報告) について

○集会担当幹事会

日時 平成 27 年 11 月 24 日 (火) 17:30~
場所 D 会議室
議題 第 81 回総会 (報告), 第 353 回例会, 第 32 回
吉岡弥生記念講演会 (第 354 回例会), 平成
28 年評議員会, 第 82 回総会について
日時 平成 27 年 12 月 22 日 (火) 17:30~
場所 D 会議室
議題 第 353 回例会, 第 32 回吉岡弥生記念講演会
(第 354 回例会), 平成 28 年評議員会, 第 82
回総会について

編集後記

本誌の編集事務局を担っている学会室は本学図書館に所属している。私は 2011 年 4 月より本学の図書館長を拝命している。この度、学長諮問会議として図書館将来構想について検討を行ってきた。その中で、本誌のあり方についても言及されたので報告する。

図書館で扱っている電子ジャーナルは、利用者が教育研究に支障をきたさないように考慮しつつ、予算と利用数によって購入を決めている。例を挙げると、2015 年の契約雑誌タイトル数は 1,209、電子ジャーナル数は 7,035、無料分を含めると約 5 万タイトルであった。医学雑誌の世界では、電子ジャーナル化が進んでいる。利用面としては、職員対象に「電子ジャーナル学外利用サービス」をおこなっているものの、一部の登録可能な出版社サイトに限られ、十分とはいえない。昨今の学術資料のオンライン化の状況を鑑みれば、学内外を問わずアクセス可能となるシステムを教育研究環境の一環として整備していく必要がある。国立情報学研究所と全国の大学が連携して構築・運営している「学術認証フェデレーション」への参加により、利用しやすく安全性の高い学外利用環境の構築が強く望まれる。

一方、東京女子医科大学雑誌は発行と同時に Twinkle に本文が登録され、インターネット上に公開されている。とはいうものの、本文 PDF は発行済みの誌面をスキャンして作成しており、デジタル化が不完全である。本誌の電子ジャーナル化を検討すべき時期に来ている。

学術情報へのアクセスのしやすさを確立するとともに、本学の知的産物を公開することにより社会に開かれた大学として、次世代の変化に対応が可能な体制が構築されると考える。

(2016. 2. 8, 斎藤加代子)

編集担当幹事：阿部光一郎	青見茂之	江川裕人○	遠藤弘良	瀧之上昌平	萩原誠久
林 和彦	檜垣祐子	平澤恭子	石田英樹	神尾孝子	糟谷英俊
木林和彦	小谷 透	松井英雄	野中 学	大貫恭正	斎藤加代子
坂元 薫○	櫻井裕之	澤田達男◎	清水洋子	篠崎和美	杉原茂孝
玉置 淳	田中淳司	谷口敦夫	徳重克年	内田啓子	内潟安子
山口直人					(ABC 順, ◎幹事長, ○副幹事長)

東京女子医科大学雑誌 86 巻 1 号：平成 28 年 2 月 25 日発行 (偶数月発行)

Journal of Tokyo Women's Medical University Vol. 86 No. 1: February 25, 2016

発行者：吉岡俊正

発行所：東京女子医科大学学会

事務局：〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1 東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室

Tel & Fax: 03-5269-7403/E-mail: gakkai.bi@twmu.ac.jp

購読料：年会費 6,000 円を含む。1 冊定価 1,000 円 (税・送料共)

振込先：(銀行振込) 東京女子医科大学学会 会長 吉岡俊正

三菱東京 UFJ 銀行 東京女子医大出張所 普通 3643723

(郵便振替) 東京女子医科大学学会 00150-4-4342

印刷：株式会社杏林舎 〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10 Tel: 03-3910-4311/Fax: 03-3949-0230

広告扱い：日本医学広告社 〒102-0071 東京都千代田区富士見 2-12-8

Tel: 03-5226-2791/Fax: 03-5226-0195

* 本誌の内容を無断で複写・複製すると、著作権・出版権の侵害になりますのでご注意ください。

東京女子医科大学学会会則

昭和 56 年制定 平成 24 年改訂

総 則

- 第 1 条 東京女子医科大学学会（以下、本会という）を学校法人東京女子医科大学（以下、本学という）に設ける。
- 第 2 条 本会は医学・看護学および医療の進歩向上を図ることを目的とし、そのための諸活動を行う。

会 員

- 第 3 条 本会の会員は、本会の目的に賛同した者で、会長の承認を得るものとする。但し、本学に常勤する准講師以上の教職員は入会するものとする。
- 第 4 条 本会は、正会員・名誉会員・準会員・特別会員によって構成される。

役 員

- 第 5 条 本会に次の役員を置く。会長 1 名、副会長 1 名、幹事若干名、監事 2 名、第 5 項に該当する評議員。
1. 会長は学長とし、本会の運営を総理する。
 2. 副会長は幹事の中から会長が指名する。副会長は会長を補佐し、会長が職務遂行に支障のある時はその代行を務める。
 3. 幹事および監事は評議員の中から会長が指名する。任期は 2 年とし、再任を妨げない。
 4. 評議員は准教授以上の本会正会員で役員の推薦を得て総会で承認を受けた者とし、本会の運営に寄与する。任期は 4 年とし、再任を妨げない。

集 会

- 第 6 条 本会の集会は総会、例会とする。
1. 総会を年 1 回開催し、庶務、会計、監査報告ならびに学術講演を行う。
 2. 例会を年 2 回開催し、学術に関する講演討論等を行う。

評議員会・幹事会

- 第 7 条 評議員会を年 1 回以上開催する。
1. 幹事は職務別に担当を決め、集会・編集・庶務・会計をそれぞれ担当し、集会・編集に関しては幹事会を月 1 回開催する。

分 科 会

- 第 8 条 本会に分科会を置くことができる。

機関誌発行

- 第 9 条 本会の機関誌を『東京女子医科大学雑誌』と称し、原則として隔月（偶数月）の発行とし本会会員に配布する。

経 費

- 第 10 条 経費は会費、入会金、寄付金、その他の収入をこれに充てる。
- 第 11 条 正会員は会費を納入する。但し、名誉会員・準会員はこれを免除する。

事 務

- 第 12 条 本会の事務室を本学 学会室に置く。

細 則

- 第 13 条 本会で講演または討論する者は本会会員に限る。但し、会長の許可を得た者はその限りではない。
- 第 14 条 会員は自己の業績を機関誌に投稿することができる。

附 則

1. 本会会則は評議員会の議決と総会の承認を得て変更することができる。
2. 会則の施行に必要な内規を別に定める。
3. この会則は、平成 24 年 10 月 1 日より施行する。

東京女子医科大学学会内規

昭和 60 年制定 平成 27 年改訂

第 1 条 会 員

1. 名誉会員
本学名誉教授および本会に対して特別な功労のある者で評議員の推薦を受け、会長の承認を得た者とし、会費納入を免除する。正会員と同等の資格を有するが、本会の役員には就任できない。
2. 準会員
本学学生、初期臨床研修医は準会員となり、会費納入を免除する。申し出のあった者のみに機関誌を配布する。
3. 特別会員
東京女子医科大学後援会特別会員のうち、本会への入会を希望した者とする。

第 2 条 入会および退会

1. 入会
 - 1) 所定の入会申込書を学会室へ提出する。
 - 2) 年会費は前納制とし、郵便振替または銀行振込で納入する。賞与対象者については、入会後の会費は下半期の賞与から自動引き落としとする。
2. 退会・休会
 - 1) 退会・休会は、その旨を書面で学会室まで申し出る。
 - 2) 休会は海外留学の場合に限り認める。期間は 3 年を限度として、その間の会費を免除する。
 - 3) 12 月末までに次年会費未納で退会届けのない場合は会員とみなし機関誌を配布し、会費を請求する。2 年滞納した場合は自然退会とする。自然退会者が再入会する場合は未納分会費を納入する。

第 3 条 集 会

1. 総会
 - 1) 年 1 回、9 月に行う。
 - 2) 総会では庶務、会計、監査報告を行い、評議員会から提出された事項を審議し、承認を得る。
 - 3) 吉岡博人記念総合医学研究奨励賞授与式と受賞グループの研究発表を行う。他に学術講演等を行う。
2. 例会
 - 1) 年 2 回、5 月、2 月に行う。
 - 2) 5 月は吉岡弥生記念講演会と称し、原則として吉岡弥生学頭の命日に当たる 5 月 22 日に開催し、吉岡弥生研究奨励賞授与式と前年度受賞者の研究発表、吉岡弥生記念講演を行う。吉岡弥生記念講演については第 3 項に定める。
 - 3) 2 月は山川寿子研究奨励賞、佐竹高子研究奨励賞および中山恒明研究奨励賞授与式と前年度受賞者の研究発表、一般演題、その他の発表を行う。
3. 吉岡弥生記念講演会
 - 1) 吉岡弥生学頭の建学の精神を称え、後世に継承するために行う。
 - 2) 講師は医学関係に限らず、広く文化、芸術、学術全般にわたって活躍している原則として女性講師を招聘する。

第 4 条 評議員会・幹事会

1. 評議員会
年 1 回以上の評議員会では、庶務・会計・監査報告、会則の変更、新評議員の推薦等の学会運営に関する重要な事項を審議する。
2. 幹事会
 - 1) 集会担当幹事 若干名、編集担当幹事 若干名、庶務担当幹事 2 名、会計担当幹事 1 名、監事 2 名。
 - 2) 集会・編集担当幹事の各々に幹事長、副幹事長を置く。幹事長は各幹事会を主催し、月 1 回幹事会を開き必要事項を討議する。副幹事長は幹事長を補佐し、幹事長が職務遂行に支障のある時はこれを代行する。
 - 3) 集会担当幹事の職務
会則第 7 条に則り、総会、例会、評議員会等の運営に関する一切の業務を担当する。
 - 4) 編集担当幹事の職務
会則第 9 条に則り機関誌の編集方針および投稿規定を定め、投稿論文の査読、採否の検討等の業務を担当する。

第 5 条 機関誌発行

1. 機関誌を原則として隔月（偶数月）の発行とする。
2. 機関誌は依頼により臨時に増刊することができる。但し、退職記念特集を優先し、費用は依頼者の全額負担とする。

第 6 条 分科会

1. 分科会は、本会に所定の認定依頼状を提出し、会長の承認を必要とする。
2. 分科会は、広く学内各分野に共通した特定の課題を中心に、定期的に学術講演、研究発表を行う。
3. 抄録を機関誌に掲載することができる。

第 7 条 附 則

1. この内規は集会担当幹事会の議決により会長の承認を得て変更することができる。
2. この内規は、平成 27 年 10 月 1 日より施行する。

東京女子医科大学雑誌投稿規定（平成 27 年 10 月改訂）

- 投稿資格**：投稿は共著者も含め本学会員に限る。但し、本学会に籍のない共著者は会員であるかを問わない。また、準会員のみでは投稿できない。
- 原稿種類**：投稿内容は原著、総説、報告、抄録、などとする。いずれも未発表のものに限る。ただし例外として、他誌に発表されたものについて、一定の要件を満たし、編集担当幹事会が認めた場合は二次出版（secondary publication）を認める。要件はホームページ「二次出版に関するお知らせ」参照のこと。
- 倫理**：人を対象とした論文は、東京女子医科大学倫理委員会規程ならびに遺伝子解析研究に関する倫理審査委員会規程に則って行われた研究であり、また動物を用いた研究は東京女子医科大学動物実験規程を遵守して行われた研究でなければならない。なお、本学会以外で行われた研究の場合は、これに準ずるものとする。
- 採否・掲載順**：原稿の採否、掲載順は編集担当幹事会において決定する。受理した原稿は原則として返却しない。
- 著作権・版権**：本誌に採用された場合、著作権は本学会に委譲され、版権は本学会に帰属する。
- 転載・引用**：既出版の図表を転載・引用する場合は必ず出典を明示する。その際、著作権の所有者の転載許可を必要とする。
- 依頼原稿**：総説は原則として編集担当幹事会の依頼によるものとし、その著者は本学会員に限定しない。掲載料ならびに別刷 50 部までを無料とする。
- 抄録**：編集担当幹事会が必要と認めた学術集会の抄録その他に関するものは有料で掲載することができる。本学会が認定した分科会の場合は刷上り 2 頁まで無料とする。
- 臨時増刊**：依頼により臨時に特別号を発行することができる。費用は依頼者の全額負担とする。
- 料金**：掲載料は普通紙で、和英論文とも刷上り原著・総説は 4 頁、報告は 2 頁まで無料、超過 1 頁につき 5,000 円とする。別刷は 50 部単位で表紙に明記し、実費とする。
- 投稿締切**：原則として偶数月 7 日を締切とする。
- 提出**：原稿 3 部、投稿申込書、チェックシート、電子媒体（USB など）を提出する。英文論文は英文校閲証明書も提出する。投稿申込書は主任教授または指導者の承認、共著者の同意、著作権の委譲に関して証明したものの。
- 校正**：初校・再校とも著者校正を原則とする。大幅な変更は認めない。
- 原稿枚数の上限**
原著・総説は刷上り 10 頁（図表含む）程度、図表 10 点程度とする。報告は刷上り 6 頁（図表含む）程度、図表 5～6 点程度とする。
- 原稿の書き方**
 - 書式**：原稿は A4 判に横書きとし、上下左右余白・行間を適宜とり、本文最初の頁に文字数×行数の設定を明記する。
 - 表紙**：表題、所属、主任または指導者氏名、著者氏名（フリガナ）、英文表題、ローマ字著者名（名・姓の順、姓は大文字）、英文所属、著者連絡先を書く。
 - 要旨**：和英論文とも、和文要旨（800 字以内）、英文要旨（200 語以内、英単語 5 個以内のキーワード）を添える。
 - 英文論文は本文・英文要旨・図表およびその説明の英文校閲を受け、その証明を添付する。
 - 構成**：原則として、緒言、対象および方法、結果、考察、結論、利益相反、文献、図の表題と説明、図、表、の順とする。
 - 図(写真)・表**：図表およびその説明は、和英論文とも英語表記とする。図はそのまま印刷できる明瞭なものとし、修飾(立体や網掛けなど)しない。図番号を明記する。図の表題と説明は別紙に一括する。カラー写真・アート紙使用はその旨明記し、トレースを要する場合もともに実費を徴収する。表は横線のみで構成し、表題・説明を含めたものとする。
 - 用語・単位**：当用漢字、現代かなづかいを用いる。専門用語は学会で統一されたものを用い、略語は初出時に正式用語またはスペルを記載する。度量衡の単位、記号は国際単位系 (SI) を原則とする。数字と単位の間は、℃ と % を除き、1 スペースあける。
 - 文献**：本文表出順に番号を付け、次の形式で記載する。著者は 3 名まで記載し、外国人名は姓名の順とする。雑誌名の略記は医学中央雑誌および Medline に従う。
雑誌；
川村雅枝, 重本六男, 森吉百合子ほか：ラット cysteamine 十二指腸潰瘍の発生機序について。東女医大誌 **56**：668-676, 1986
Quimby GF, Bonnace CA, Burnstein SH et al: Active smoking depresses prostaglandine synthesis in human-gastric mucosa. *Ann Intern Med* **104**: 616-619, 1986
Jurgens HA, Johnson RW: Dysregulated neuronal-microglial cross-talk during aging, stress and inflammation. *Exp Neurol* 2010, doi: 10.1016/j.expneurol.2010.11.014, Published online (accessed on Aug 28, 2010)
単行本；
城所良明：神経筋接合の形成。「筋発生の細胞生物学」(小沢英二郎, 嶋田 裕, 真崎知生編), pp259-282, 学会出版センター, 東京 (1983)
Kahn CR, Roth J: Insulin receptors in disease states. *In* Hormone-Receptor Interaction (Levy GS ed), pp1-29, Marcel Dekker, New York (1981)
Bargman JM, Skorecki K: Part 13. Disorders of the Kidney and Urinary Tract. Chapter 280. Chronic Kidney Disease. *In* Harrison's Online. The McGraw-Hill Companies, New York. <http://www.accessmedicine.com/content.aspx?aid=9130075> (accessed on Sep 5, 2011)
 - 電子媒体**：USB などに原稿と図表のファイルを保存し、ソフト (version) 筆頭著者名、所属を記す。
 - 連絡先**：投稿、編集、印刷に関する問い合わせ等はすべて下記宛とする。
〒162-8666 東京都新宿区河田町 8-1
東京女子医科大学 中央校舎 3 階 学会室
Tel・代表：03-3353-8111 (内線 22314)
Tel & Fax：03-5269-7403 (直通)
E-mail address：gakkai.bi@twmu.ac.jp
URL：http://www.twmu.ac.jp/gakkai/

投稿申込書

平成 年 月 日

東京女子医科大学学会 編集担当幹事長 殿

下記論文を貴誌に投稿いたします。この論文は他誌に未発表であり、また投稿中でもありません。採用された場合には、この論文の著作権を東京女子医科大学学会に委譲すること、当学会と契約を交わした Web サイトへ全文または要旨を掲載することに同意いたします。

なお、本論文の内容に関しては、著者（ら）が一切の責任を負います。

署名

論文表題	
------	--

署名	著者全員の署名が必要です。欄が足りない場合はコピーして2枚提出して下さい。			
①	年 月 日	②	年 月 日	
③	年 月 日	④	年 月 日	
⑤	年 月 日	⑥	年 月 日	

原稿種類	<input type="checkbox"/> に✓または×を入れて下さい。
	<input type="checkbox"/> 原著 (<input type="checkbox"/> 学位申請論文) <input type="checkbox"/> 総説 <input type="checkbox"/> 報告 <input type="checkbox"/> ほか ()

推薦	原著・学位申請論文の場合、主任教授または指導者の署名が必要です。	
署名		所属

連絡先	<input type="checkbox"/> 医局・教室 <input type="checkbox"/> 出張先 <input type="checkbox"/> 自宅			
氏名		所属		
住所	〒			
Tel		Fax		E-mail Address

請求書宛名	<input type="checkbox"/> 筆頭著者名 <input type="checkbox"/> 医局・教室名 <input type="checkbox"/> ほか ()		
-------	--	--	--

請求書送付先	<input type="checkbox"/> 医局・教室 <input type="checkbox"/> 出張先 <input type="checkbox"/> 自宅			
氏名		所属		
住所	〒			

利益相反	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
IR*登録	<input type="checkbox"/> 同意しない

※IR とは「東京女子医科大学学術リポジトリ Twinkle」
(<http://ir.twmu.ac.jp/dspace/>) のこと。

IRには全文を登録します。

のない場合は同意していただいたものといたします。

学会室記入欄：

論文受付日 年 月 日

論文受理日 年 月 日

受付番号

東京女子医科大学雑誌～チェックシート～

平成25年9月

以下の□にすべてチェックが入った状態で投稿してください

提出書類

- 原稿3部
- 投稿申込書
- ＜原著の場合＞
 - 主任教授または指導者の署名
- ＜英文論文の場合＞
 - 英文校閲証明書
- 電子媒体
 - 表紙・本文（倫理審査、利益相反を含む）・文献を「本文」ファイルとする
 - 英文要旨を「英文要旨」ファイルとする
 - 和文要旨を「和文要旨」ファイルとする
 - 図・写真の説明を「図説」ファイルとする
 - 図・写真または表を「図」「表」ファイルとする
- チェックシート（本紙）

原稿書式

- A4判用紙
- 行間1.5行程度あける
- ページ番号を付す
- 小見出しの番号は、1. →1) →(1) →①の順で使用する
- 図表箇所を原稿右余白に記す
- 略称を用いる場合、初出時に定義する
- 修飾文字（イタリック、上付き、下付き、プライム等）を指定する
- 原稿枚数の上限内である
- ＜原著と総説の場合＞
 - 刷上り頁数（図表含む）10頁
 - 図表 10点
- ＜報告の場合＞
 - 刷上り頁数（図表含む）6頁
 - 図表 5～6点

表紙

- A4判用紙1枚におさめる
- ＜和文論文の場合＞
 - 原稿の種類 ※原著／総説／報告など
 - 和文タイトル
 - 和文所属
 - 著者氏名（フリガナ）
 - 英文タイトル
 - ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字
 - 英文所属
- ＜英文論文の場合＞
 - 原稿の種類 ※Original／Review／Reportなど
 - 英文タイトル
 - ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字
 - 英文所属

英文要旨

- A4判用紙1枚におさめる
- 英文タイトル
- ローマ字著者氏名 ※名・姓の順、姓は大文字
- 英文所属
- 本文200 words程度
- Key Words（英単語5個以内）

和文要旨

- A4判用紙1枚におさめる
- 和文タイトル
- 和文所属
- 著者氏名（フリガナ）
- 本文800文字程度

（裏へ）

本文構成

<総説の場合>

- はじめに Introduction
- おわりに Conclusion
- 文献 Reference

<原著の場合>

- 緒言 Introduction
- 対象および方法 Materials and Methods
- 結果 Results
- 考察 Discussion
- 結論 Conclusion
- 文献 Reference

<報告の場合>

- 緒言 Introduction
- 症例 Case Report
 - 患者 Patient
 - 主訴 Chief complaint
 - 既往歴 History of past illness
 - 現病歴 History of present illness
 - 血液生化学検査 Blood gases など
- 結果 Results
- 考察 Discussion
- 結論 Conclusion
- 文献 Reference

倫理審査 ※該当する場合は承認を得たことを“対象および方法”で記載してください

- 承認済
- 非該当

利益相反 ※文献の前に記載してください

<ない場合>

- 「開示すべき利益相反状態はない。」「The author(s) indicated no conflicts of interest.」などと記載する

<ある場合>

- 「この研究の〇％は×××からの支援により行った。」「About 〇% of this study was supported by ×××.」などと記載する

文献

- 文献引用箇所を本文中に明記する
- 文献番号は本文表出順とする
- 著者名は姓・名順とする
- 省略を表すピリオドは不要
- 雑誌名は略記する
- 終頁は省略しない (例) 正: 234-236 誤: 234-6
- その他、記述法が正しい

<雑誌の場合>

著者名 3名+ほか または et al: 論文のタイトル. 雑誌名の略記 巻(号): 始頁-終頁, 発行年

<著書(和文)の場合>

著者名 3名+ほか: 引用章タイトル. 「書名」(編集・監修者名), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

<著書(英文)の場合>

著者名 3名+et al: 引用章タイトル. In 書名(編集・監修者名 ed), pp 始頁-終頁, 出版社, 出版地(発行年)

図(写真)の説明

- タイトルがある
- 説明がある
- タイトルおよび説明を英語表記とする

図(写真)

- 図・写真中の単語を英語表記とする
- 文字サイズ・フォントを考慮して作成する
- 図番号を明記する ※写真は図とする
- 希望する印刷法(カラーまたはモノクロ)を明記する
- 手札サイズの写真はA4判用紙に貼る(四隅のみ糊付け)
- 同じ図番号の場合は出来るだけ同じ用紙におさめる
- カラー印刷希望の場合は出来るだけ1頁におさめる ※出来上り1頁60,000円

<転載の場合>

- 出典元情報を明記する
- 転載許諾を得る ※転載許諾書をご提出下さい

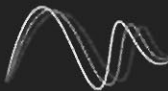
表

- タイトルがある
- 説明がある
- 表中の単語、タイトルおよび説明を英語表記とする

署名



オレキシン受容体拮抗薬 - 不眠症治療薬 -



ベルソムラ錠 15mg 20mg

スボレキサント錠

Belsomra

習慣性医薬品 (注意- 習慣性あり)

処方箋医薬品 (注意- 医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等の詳細につきましては添付文書をご参照ください。



MSD

製造販売元 [資料請求先]

MSD株式会社

〒102-8667 東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア

<http://www.msd.co.jp/>

【MSDカスタマーサポートセンター】

医療関係者の方: フリーダイヤル 0120-024-961

〈受付時間〉9:00-17:30 (土日祝日・当社休日を除く)

学会誌・ガイドライン・抄録集などが タブレット・スマートフォン・PC でお読みいただけます!

学術専門の電子書籍サービス!



学術専門の
電子書籍サービス



カリブ
KaLib
Kansai Academic Library

KaLib (カリブ) は、学術に特化した電子書籍サービスです。論文、ガイドライン、テキスト等のコンテンツをタブレットやスマートフォン、PCなど、お好みのデバイスで、閲覧しながらメモをとることができます。また、興味のある論文だけをピックアップし、自分だけの本としてまとめたり、用語集をとりこんで、さらに便利なリーダーにカスタマイズすることもできます。

医局でも
診療中でも
移動中でも



学術関連書籍続々リリース中!



株式会社 杏林舎
〒114-0024 東京都北区西ヶ原 3-46-10

TEL 03-3910-4311
E-mail support@kalib.jp

<http://www.kalib.jp/>

Lamictal®

抗てんかん剤 薬価基準収載

劇薬 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

ラミクタール錠 小児用 2mg
小児用 5mg

Lamictal® Tablets ラモトリギン錠

抗てんかん剤 / 双極性障害治療薬 薬価基準収載

劇薬 処方せん医薬品(注意-医師等の処方せんにより使用すること)

ラミクタール錠 25mg
100mg

Lamictal® Tablets ラモトリギン錠



※「効能・効果」、「用法・用量」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「警告、禁忌を含む使用上の注意」については添付文書をご参照ください。

製造販売元

グラクソ・スミスクライン株式会社

〒151-8566 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-6-15 GSKビル

グラクソ・スミスクラインの製品に関するお問い合わせ・資料請求先

TEL : 0120-561-007 (9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)

FAX : 0120-561-047 (24時間受付)

2014年12月作成



喘息治療配合剤 処方せん医薬品[※]

薬価基準収載

フルティフォーム®

50エアゾール 56吸入用・120吸入用 125エアゾール 56吸入用・120吸入用

Flutiform® Aerosol

フルチカゾンプロピオン酸エステル/ホルモテロール fumarate水和物吸入剤
注) 注意-医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意等については添付文書等をご参照下さい。

新しい喘息治療配合剤フルティフォームのすべてがわかる医療従事者向けWebサイト「フルティフォーム.jp」をご覧ください。

<http://www.flutiform.jp>

杏林製薬株式会社

東京都千代田区神田駿河台四丁目6番地
(資料請求先: <すり情報センター>)

作成年月: 2014.12

AVASTIN®

bevacizumab



日本標準品分類番号 974291

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、創薬、処方箋医薬品^{注2)}

薬価基準収載

アバスタチン® 点滴静注用 100mg/4mL
400mg/16mL



ベバシズマブ(遺伝子組換え) 注

注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor(血管内皮増殖因子)

注2) 注意—医師等の処方箋により使用すること

(資料請求先)

製造販売元 中外製薬株式会社 〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

※ 効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

2015年2月作成



選択的 direct 作用型第Xa因子阻害剤

イグザレルト®錠

10mg 15mg
細粒分包 10mg 15mg

Xarelto® (リバーロキサバン)

処方箋医薬品 (注意—医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

効能・効果
追加

深部静脈血栓症及び肺血栓症の
治療及び再発予防

深部静脈血栓症及び肺血栓症の
治療及び再発予防

剤形追加
新発売

細粒

資料請求先

バイエル薬品株式会社
大阪市北区梅田2-4-9 〒530-0001
<http://www.bayer.co.jp/byl>



2015年12月作成

効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等につきましては、
製品添付文書をご参照ください。



免疫抑制剤 (mTOR阻害剤) 薬価基準収載

サーティカン錠 0.25mg
0.5mg
0.75mg

劇薬 処方箋医薬品 注意-医師等の処方箋により使用すること

CERTICAN® エベロリムス錠

サーティカンホームページ <http://www.certican.jp>

薬価基準収載

急性拒絶反応抑制剤 (抗CD25E/クローナル抗体)

シムレクト® 静注用 20mg
シムレクト® 小児用 静注用 10mg

生物由来製品 劇薬 処方箋医薬品
注意-医師等の処方箋により使用すること

SIMULECT® バシリキシマブ (遺伝子組換え) 静注用

シムレクトホームページ <http://www.simulect.jp>

免疫抑制剤 (カルシニューリンインヒビター) 薬価基準収載

ネオーラル® 10・25・50mgカプセル
内用液10%

劇薬 処方箋医薬品 注意-医師等の処方箋により使用すること

Neoral® シクロスポリン製剤

ネオーラルホームページ <http://www.neoral.jp>

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 〈資料請求先〉
ノバルティス ファーマ株式会社
東京都港区虎ノ門1-23-1 〒105-6333

NOVARTIS DIRECT
0120-003-293
受付時間：月～金 9:00～17:30
(祝日及び当社休日を除く)
www.novartis.co.jp